

令和元年度（第63回）

岩手県教育研究発表会

新しい時代を拓く子どもたちの主体的な学びの充実を図る

カリキュラム・マネジメント

～教科等横断的な視点に立って育む資質・能力～

多数のご参加ありがとうございました。

2月13日（木）・14日（金）に、花巻温泉、総合教育センター及び生涯学習推進センターを会場に、県内外から2日間でのべ約2,300名余りの参加者を迎え、「新しい時代を拓く子どもたちの主体的な学びの充実を図るカリキュラム・マネジメント」をメインテーマとして開催しました。

1日目の全体会は、講演会（講師：横浜国立大学 高木 展郎 名誉教授）とパネルディスカッション（ファシリテーター：横浜国立大学 高木 展郎 名誉教授、パネリスト：宮古小学校 工藤 千秋 主幹教諭、世田米中学校 黄川田 潤一 教諭、遠野高等学校 鈴木 徹 副校長）を行いました。

全体会の講演会では、「新しい時代を拓くこれからのカリキュラム・マネジメント～教科等横断的な視点に立って育む資質・能力～」と題し、資質・能力の育成に向け、学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメントの在り方について講演をいただきました。

今年度の特設分科会は、本県の教育課題を踏まえた特設1「学力向上」、特設2「小学校外国語教育」、特設3「小学校プログラミング教育」、特設4「学校マネジメント／異校種間連携」の4つを設定しました。

特設分科会1「学力向上」では、小・中・高等学校の3校による取組の発表、その後、「主体的な学びを充実させる授業改善」と「教科や学年・校種を超えた横断的な授業改善の取組」を柱とした協議の後に、県教育委員会事務局 学校教育課 小久保 智史 総括課長の講話を行いました。

特設分科会2「小学校外国語教育」では、2校の実践研究発表と、総合教育センターの研究発表を行い、その後、文部科学省初等中等教育局 直山 木綿子 視学官から講演をいただきました。

特設分科会3「小学校プログラミング教育」では、奥州市立若柳小学校（6学年）の児童を会場に招き、総合教育センター 三田 正巳 主任研修指導主事による小学校理科のプログラミング教育の提案授業を行いました。

特設分科会4「学校マネジメント／異校種間連携」では、岩手大学の教職大学院生、遠野市教育委員会、中野小学校のさまざまな立場からの発表がなされた後、国土館大学 北神 正行 教授から講演をいただきました。

全体会には507名、特設分科会1は176名、特設分科会2は122名、特設分科会3は136名、特設分科会4は124名の参加者を得て、大変充実した内容となりました。

分科会では、各教科領域・教育課題等17分科会において、101主題の授業実践、研究成果が発表されました。講演会やパネルディスカッション、ポスターセッション等を行った分科会もあり、興味深い新たな知見を学んだり喫緊のテーマについて協議したりするなど、大変充実したものとなりました。それぞれの発表の成果が、これからの岩手の教育の充実につながることを期待しております。

ご多用の中、講演講師、パネリスト等を務めていただきました皆様、研究発表いただいた発表者の皆様、そして、発表者を推薦していただいた各教育関係機関、企画展に出品していただいた各学校、さらに、運営に当たってご支援とご協力を賜りました花巻温泉のスタッフの皆様をはじめ、関係各位に心から感謝を申し上げます。

全体会（講演会、パネルディスカッション）

講演会



横浜国立大学
名誉教授 高木 展郎 氏

学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメントの在り方について、横浜国立大学 高木展郎名誉教授より、「新しい時代を拓くこれからのカリキュラム・マネジメント～教科等横断的な視点に立って育む資質・能力～」と題して、ご講演いただきました。学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため、豊富な具体的事例をもとに、教科等横断的な学習の充実や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方など、これからの教師に求められる考え方、姿勢、そしてめざしたい学校像を共有することができました。

<講演>

新しい時代を拓くこれからのカリキュラム・マネジメント
～教科等横断的な視点に立って育む資質・能力～

横浜国立大学 名誉教授 高木 展郎



パネルディスカッション



小中高の各校種の
パネリスト

講演に引き続いて、高木名誉教授にファシリテーターをお務めいただき、「カリキュラム・マネジメントを推進するためのポイント」と題してパネルディスカッションを行いました。宮古市立宮古小学校・住田町立世田米中学校・県立遠野高等学校からパネリストをお招きし、各校種の現状や地域に根ざした実践について発表いただきました。校種や地域の現状の課題を共有したうえで、カリキュラム・マネジメントを推進する手立てを具体的に話していただきました。最後にファシリテーターの高木名誉教授から、学校目標の実現に向けた学校教育が活動で終わらないように、育成すべき資質・能力を明確化することの重要性についてご指摘をいただき、今後の方向性を共有する機会となりました。

[テーマ]

カリキュラム・マネジメントを推進するためのポイント

[ファシリテーター] 横浜国立大学 名誉教授 高木 展郎

[パネリスト] 宮古市立宮古小学校 主幹教諭 工藤 千秋

住田町立世田米中学校 教諭 黄川田 潤一



ファシリテーターの高木氏

特設分科会 1 「学力向上」



本県の学力向上の基本的な視点として「子どもの姿で語る授業改善」を分科会のテーマとし、前半に、軽米町立軽米小学校、陸前高田市立高田第一中学校、県立大迫高等学校より、組織的な取組の実践について発表いただきました。後半は、岩手県教育委員会学校教育課 小久保智史総括課長が本県の学力向上と授業の在り方について講話を行いました。「確かな学力育成プロジェクト」、「いわての授業づくり3つの視点」について共有するとともに、「主体的な学びを充実させる授業の在り方」などについて理解を深める機会となりました。

<趣旨説明>

学校教育課

指導主事 山本 克哉

<発表>

学力向上を図るための組織的な取組の工夫～各種調査結果の共有と活用を通して～

軽米町立軽米小学校 教諭 村上 和幸、教諭 倉内 隆宗

主体的な学びの充実 ～組織的な取組を通して～

陸前高田市立高田第一中学校 主幹教諭 西條 淳

個に対応した組織的な取組と連携 ～課題解決型の取組の中での共通認識づくり～

岩手県立大迫高等学校 副校長 助川 剛栄

<協議>

進行 学校教育課 首席指導主事兼学力向上担当課長 菊池 一章

<講話>

子どもたちの姿で見つめ直す本県の学力向上と授業のあり方～つまずきの克服と主体的な問題発見・解決（探究）を通じたどの子も伸ばす授業改善～

学校教育課 総括課長 小久保 智史

特設分科会 2 「小学校外国語教育」



新学習指導要領の全面实施に向け、小学校における外国語活動・外国語科に係る先進研究の発表及び講演等を通して、外国科授業の在り方、校内体制整備の在り方、学校間連携の在り方等について理解を深める機会となりました。文部科学省初等中等教育局直山木綿子視学官の講演では、外国語科の学習評価に関する最新の資料等が示されたほか、県指定の盛岡市立厨川小学校、国指定の山田町立豊間根小学校及び県教育委員会が作成した学習到達目標等の確かさや、今後の研究実践の方向性について助言をいただきました。視学官でありながら、一教師として語り掛ける言葉が参会者の心に響きました。

<発表1>

主体的にコミュニケーションを図る子どもの育成 ～新学習指導要領に基づく外国語・外国語活動における授業づくりを通して～

盛岡市立厨川小学校

教諭 伊藤 茂

教諭 高橋 由美

教諭 吉田 貴子

<発表2>

外国語で主体的に表現しようとする児童の育成 ～児童が表現したいことに寄り添う指導を通して～

山田町立豊間根小学校

教諭 喜田 聖枝

<発表3>

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指す小学校外国語科指導の在り方に関する研究～「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例とWE-CANシートの活用を通して～

総合教育センター

研修指導主事 中野 誉史

盛岡市立見前南小学校

教諭 矢吹 梨沙

花巻市立太田小学校

教諭 佐藤 一也

金ヶ崎町立西小学校

教諭 菅原 和子

一関市立萩荘小学校

教諭 藤田 裕子

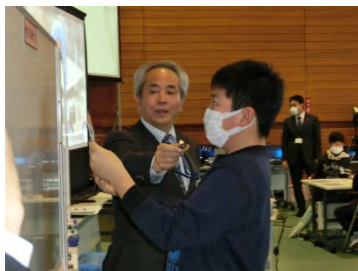
<講演>

これからの外国語教育の在り方 ～新学習指導要領を見据えて～

文部科学省初等中等教育局

視学官 直山 木綿子

特設分科会 3 「小学校プログラミング教育」



今年度から全面实施となった「小学校プログラミング教育」について、総合教育センターでは平成 29 年度から研究を進めてきました。

特設分科会 3 では、奥州市立若柳小学校 6 年生に協力いただき、理科「電気と私たちの暮らし」の提案授業を行いました。児童はフローチャートを活用して自分の考えを明確にして、それをもとにマイクロビットを使ってプログラミングをすることで、プログラミングが効率的な電気の利用に役立っていることに気づきました。参会者のみなさんと指導法等について共有することで、プログラミング教育の円滑な導入への手掛かりを得る機会となりました。

〔内 容〕 小学校理科 第 5 学年「電気とわたしたちの暮らし」

〔授業者〕 県立総合教育センター 主任研修指導主事 三 田 正 巳

〔児 童〕 奥州市立若柳小学校 6 年 1 組

＜提案授業＞

第 1 時（導入）コンピュータを使わないプログラミング教育（アンブラグド授業）

第 2 時（本時）コンピュータを活用したプログラミング教育

＜研究協議＞

助言 岩手大学教育学部

教授 宮 川 洋 一

特設分科会 4 「学校マネジメント／異校種間連携」



資質・能力の育成を図る新しい時代に求められる学校経営の在り方について、教科等横断的な学習や異校種間連携の事例発表を行いました。また、国土舘大学 北神正行教授より、「学校ビジョンと戦略～管理職とリーダー教員にとってのマネジメントの課題～」と題して、学校組織マネジメントの具体と、教員に求められるリーダーシップや役割についてご講演いただきました。学校経営における課題やその解決へ向けた方向性について理解を深める機会となりました。

＜発表 1＞

中学校における働き方改革 ～教員の意識改革および業務改善に関わる実践を通して～

岩手大学教職大学院

現職院生 木 村 洋

＜発表 2＞

高等学校における組織活性化のあり方 ～学校ビジョン実現の促進者としてのミドルリーダーの役割～

岩手大学教職大学院

現職院生 高 橋 健

＜発表 3＞

義務教育 9 年間で踏まえた小中連携 ～遠野市教育研究所における学力向上取組を通して～

遠野市教育研究所

指導主事 楠 美 富 栄

＜発表 4＞

問いをもち、主体的に学び続ける子供の育成 ～海洋科・生活科を中心とした教科等横断的な学習指導を通して～

洋野町立中野小学校

校長 小 川 祐 史

教諭 阿 部 正 文

＜講演＞

学校ビジョンと戦略 ～管理職とリーダー教員にとってのマネジメントの課題～

国土舘大学

教授 北 神 正 行

分科会－17 分科会実施－



参加者の声～アンケートから～

発表会にご参加いただいた皆様に、会運営や所員等の発表内容について、アンケートを実施しました。

＜おことわり＞

- アンケート回収枚数は617枚です。
- 未回答があるため、所属校種の合計はアンケート回収枚数と異なります。
- 割合の合計は、端数処理のため100にならない場合があります。

所属校種	幼稚園等 保育所	小学校 (義務教育学校前期課程)	中学校 (義務教育学校後期課程)	高等学校	特別支援学校	その他
上段：回答数	32	235	198	58	41	30
下段：割合%	5.4%	39.6%	33.3%	9.8%	6.9%	5.1%

全体会	名称	大いに 参考になった	参考になった	あまり参考に ならなかった	参考に ならなかった
人数 [割合%]	講演会	213 [85.9%]	34 [13.7%]	1 [0.4%]	0 [0.0%]
	パネル・ディスカッション	79 [32.5%]	128 [52.7%]	35 [14.4%]	1 [0.4%]

特設分科会	分科会名	大いに 参考になった	参考になった	あまり参考に ならなかった	参考に ならなかった
人数 [割合%]	特設1「学力向上」	52 [46.4%]	54 [48.2%]	4 [3.6%]	2 [1.8%]
	特設2「小学校外国語教育」	47 [75.8%]	15 [24.2%]	0 [0.0%]	0 [0.0%]
	特設3「小学校プログラミング教育」	14 [33.3%]	19 [45.2%]	7 [16.7%]	2 [4.8%]
	特設4「学校マネジメント/異校種間連携」	46 [80.7%]	10 [17.5%]	1 [1.8%]	0 [0%]

アンケートの 記述から (抜粋)

- ・今求められる教育から、この先大切になる教育について研修できる貴重な内容ばかりです。毎年、各校から受講者を出し、伝達講習により広げる必要があると強く感じました。(小学校)。
- ・(全体会) 高木先生の講演会の内容は、新学習指導要領に関係の深いカリキュラム・マネジメントの意味・重要性・手順・評価等について大変詳しく具体的に説明して頂き、とても勉強になりました。(高等学校)。
- ・(全体会) パネルディスカッションの発表3校は、いずれも総合的な学習の時間を軸とする実践でしたが、違う特色のある実践について知りたかったです。(小学校)
- ・(特設1) 学力向上について、テーマである「子どもの姿で語る授業改善」の子どもの姿で語るという部分に関して、もう少し深めたいと感じました。教師の姿で語る部分は多く話されていたが、子どもの姿で…のところが少ないと感じました。講話については大変参考になりました。(中学校)
- ・(特設2) CAN-DOリストの作成手順が非常に参考になりました。総合教育センターの先進的な取り組みも勉強になります。直山先生から評価についてのお話が聞けて、県外から来て本当に良かったです。(その他)
- ・(道徳) 道徳のシンポジウムでは様々な立場の方からの話を聞くことができとてもよかった。これからの視点、取り組みのヒントがいっぱいあった。参考になりました。ありがとうございました。(中学校)

★アンケートにご協力くださった皆様、大変ありがとうございました。今回のアンケート結果を来年度の研究発表会の運営や所員等の研究推進に生かしていきます。来年度も先生方の多数のご参会をお待ちしております。

[センターのホームへ](#)